

クラフトこぶんカブトの作り方

クラフトこぶんカブト～古墳時代の眉庇付 冑～



正面



横



うしろ

●眉庇付冑について

眉庇付冑は古墳時代に使用された冑で、頭を守るために使われました。金属の板を重ね、重なった部分を鉾という釘状のもので固定する鉾留という方法で作られています。額を守るための、眉庇という帽子のつばのような部分があるのが特徴です。金属が貴重だった時代、有力な豪族だけが持つことができた、権力の象徴でもありました。

クラフト眉庇付冑のモデルは小松市埴田町の後山無常堂古墳から出土した本物の冑です。本物の冑と同じく、18枚の板を重ねる方法で作ります。

●作り方



☆用意するもの

- ・のり（または両面テープ）
- ・はさみ
- ・カッター
- ・めうち
- ・えんぴつ
- ・割鉾（市販品）
- ・カッティングボード（カッター用の下敷き ないときは新聞紙等）

はさみ、カッター、めうちを使うときは、ケガをしないように気をつけてね！

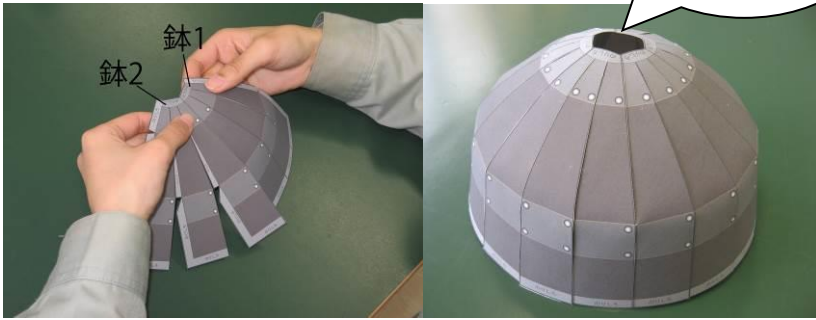
1. 切り抜き



部品を切り抜きます。実線の部分を切り抜きます。点線の部分は切りません。細かい部分の切りこみもしっかりいれましょう。伏板の中央の線にもカッターで切りこみを入れます。

2. 鉢づくり

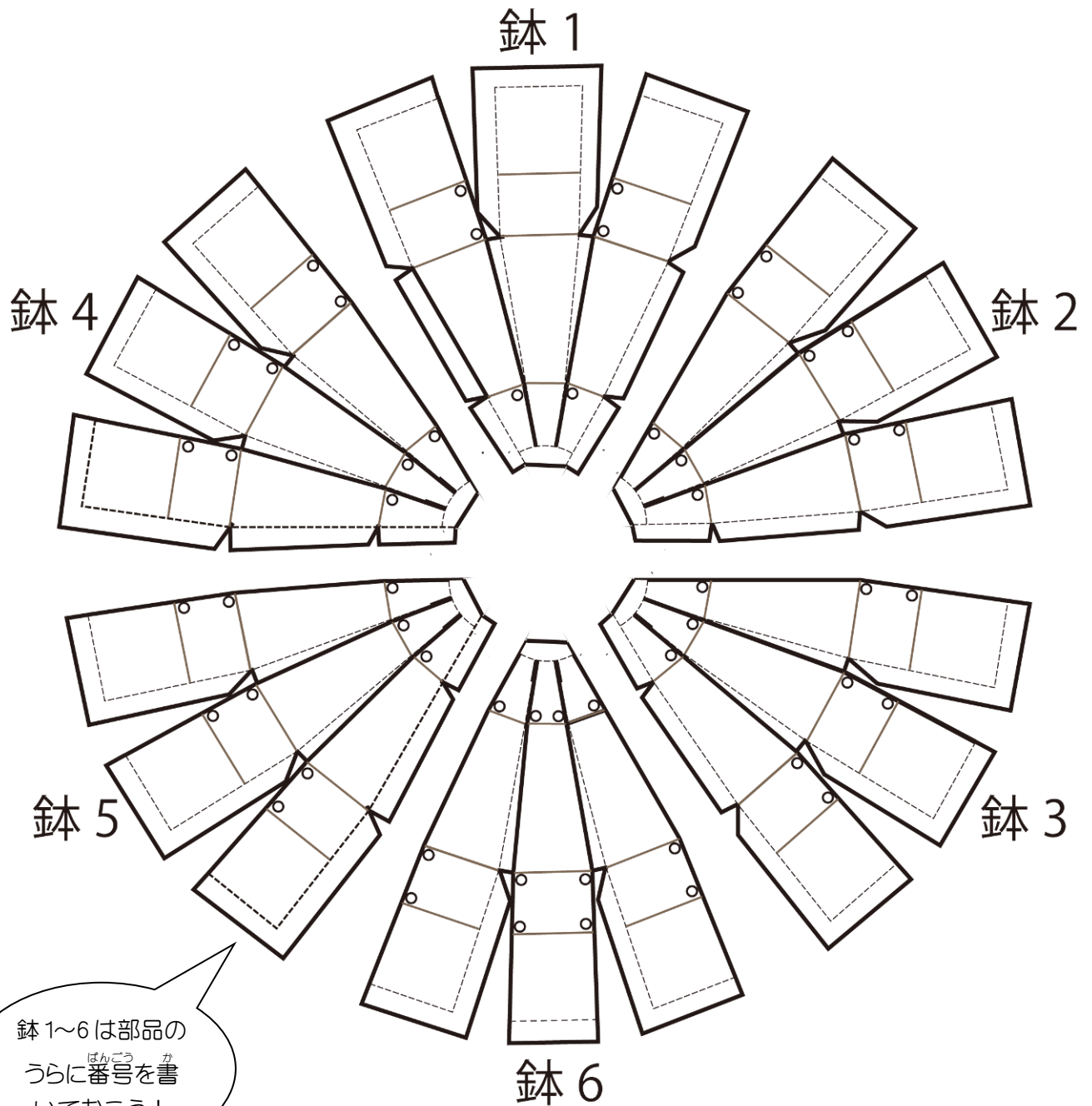
鉢6が正面、
鉢1がうしろに
なるよ



まず鉢1をのりづけし、組み立てます。
鉢1に鉢2をはりつけてから、鉢2を組
み立てます。

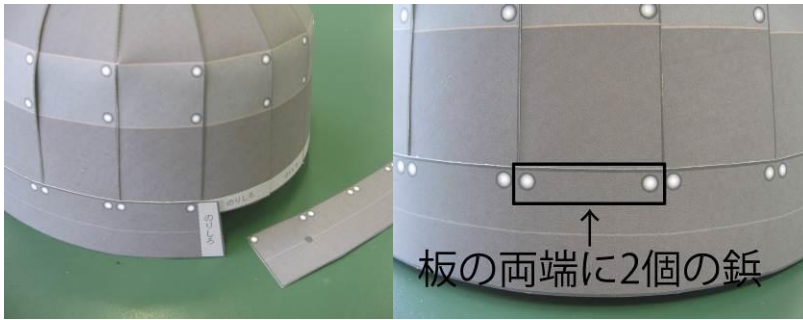
同じように、鉢3を鉢2へ、鉢4を鉢
1へ、鉢5を鉢4にはりつけ、さいごに
鉢6を鉢3と鉢5をつなぐようにはりつ
けます。

鉢展開図



鉢1~6は部品の
うらに番号を書
いておこう!

3. 腰巻板のとりつけ



鉢の下の、のりしろに腰巻板をはりつけます。

▲のあたりが鉢6の中心にくるようにはります。

このとき、鉢の板一枚につき両端に釘がほしい二個のるように、はりつけます。

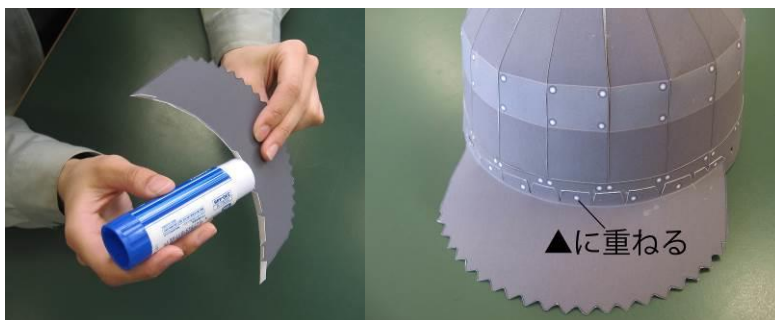
4. 「伏鉢、管、受鉢」づくり



二つにおりまげ、おもてとうらを、はりあわせませ。さしこみのりしろを伏板の切りこみにさしこみ、伏板のうらに、のりしろをはりつけて、伏板に固定します。

鉢の上の穴をふさぐように、伏板をはりつけます。

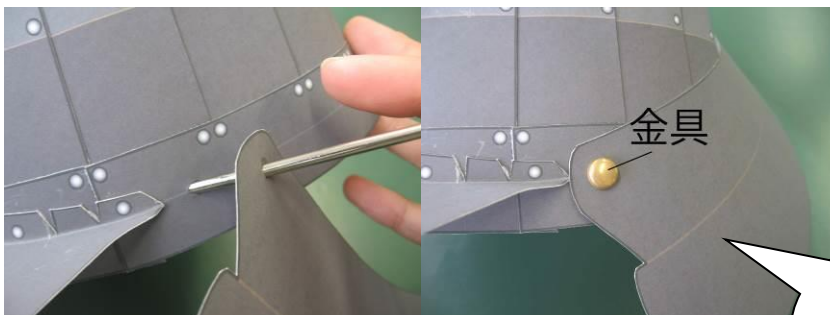
5. 眉庇のとりつけ



眉庇の灰色の線にそって、切り込みを入れた部分を折りまげませ。折った部分のうらに、のりをぬり、腰巻板の灰色の線にそうようにはります。

このとき、眉庇の真ん中の釘が腰巻板の▲に重なるようにはります。

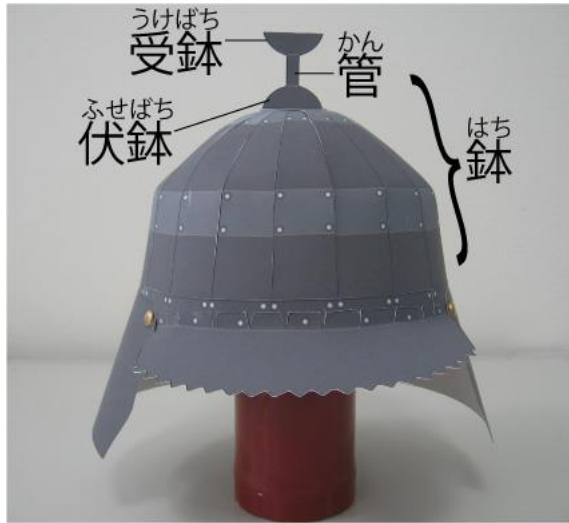
6. しころのとりつけ



腰巻板の●に、しころの●を重ね、穴をあけて金具（割釘）でとめます。

金具でとめるから、しころが動くよ！

完成！！



正面



横

ペットボトルなどにかぶせて飾ってね！

●本物の眉庇付冑を見に行こう！

本物の後山無常堂古墳出土の眉庇付冑は、加賀国府ものがたり館で見ることができます。また、眉庇付冑といっしょに出土した、短甲や鏡、勾玉なども展示されています。館内には飛鳥時代の河田山 33号墳切石積み石室が復元されているほか、小松市内の遺跡出土品が通史的に見学できます。

となりにある史跡公園には、古墳時代前期の河田山 1号墳(前方後方墳)、飛鳥時代の河田山 9号墳、移築復元された河田山 12号墳が保存されています。

本物の眉庇付冑を観察して、クラフト眉庇付冑とのちがいを発見してみよう！



小松市立加賀国府ものがたり館

住所：石川県小松市国府台 3 丁目 64 番地

電話：0761-47-4533

(解説付き団体見学の問合せは 0761-47-5713)

開館時間：9：30～16：30 (入館受付は 16：00 まで)

休館日：水曜日 (祝日をのぞく)

祝日の翌日 (水曜日が祝日の場合はその翌日)

年末年始

入館料：無料

地図

